

令和 4年 6月26日

登録番号 13 — 001

氏名 森 野 和 子

登録番号 16 — 024

氏名 芳 本 賢 治

大阪市地域公共人材活動報告書

記

1 派遣日時 令和4年 6月19日(日) 10:00 ～ 12:45
(第4回派遣)

2 派遣場所 株式会社アサヒペン 大阪本社 会議室

3 参加人員 10人(事務局含む)

【参加者】(敬称略)

* 日本日曜大工クラブ 7名

* 地域公共人材 2名

* 事務局 1名

4 活動内容

(1) 派遣内容(ミッション) (4回目)

* 役員が、既存メンバーの参加率を上げ内向きのコミュニケーションを活性化させることを目的に作成した会のビジョンを、会員全体で共有・確定する

* その実現に向けて、具体的な方策を挙げて共有し、実践する

(2) 支援内容(どんなことをしたか)

＜会長による進行＞

(1) 現状説明：役員数が不足、2名以上の応援が必要

(2) 「仮説(活動目的・会員像・当面のメイン活動)」説明

→ 賛同・承認

↓

＜公共人材による進行＞ (参照：資料-4)

◆実現するために、それぞれが貢献できること、何をするのかを出し合う

(3) 成果(話合いの結果、今後の予定)

(団体の現状、整理事項)

* 現会員のカムバック > 新しい会員を募る

↑

“声を掛ける” > メール
*早めの例会の告知、何度もリマインド
*実態調査の実施

(次回計画)

(7/12) 役員会

(7/17) 例会：フリマ+おしゃべり会+作品見せる

↑今までも参加率の高いイベント

【所感】

話し合いの中で、『後進に伝えたいこと』を問うたところ、「技術」だった。

高度経済成長期には右肩上がりで、モノの充実が幸せの象徴だったし、日本日曜大工クラブもその生活の流れに沿っていたのではないかな。今や「幸せ」は多様化し、モノも簡単に安価で手に入る時代。「技術」だけなら、情報は手軽にキャッチできる。これが一番に出ることが、今の状況を作っているのではないかな。

人が流動的でありながら、組織が継続していくことは、改めて難しいのだと実感した。しかしながら、その「人を繋ぐ」のも人のチカラ。「この人と繋がりたい」と思えば、例えそれが「技術」だとしても、繋がるのだろう。便利なツールは増えてきたが、「直接声を掛ける」というアナログさ。気づいた人が、自分のできることを愚直に実践するしかないのかもしれない。

【所感】

今回会場目的の一つに、役員でないメンバーに、一人でも現在人数が少なくなっている役員を引き受けてほしいという役員の期待を実現支援するというものがありました。そのつもりで、意欲的な人がいるのか会合の立ち上がりをオブザーブしていたところ、今回の参加者全員がとてもアクティブなメンバーだということに気づき、自分が第三者の立場であるということを忘れ去るぐらい感激してしまいました。

当日の参加者の方たち全員がとても前向きに展示会に取り組んでいきたいという意欲をもっているということがうれしかったです。

以上のようなことから、第5回会合は、全世代の意欲的なメンバーをまきこんでこの秋の展示会企画案とその具体策を考える会合にして、公共人材の一連の支援を終了するというアイデアを現段階では抱いています。